



とねしょうかわらばん

3月3日版

【支援教育学習会 出前授業】



2月22日(水)に、幼いころに視力を失われた 三上 洋(みかみ よう)さんを講師にお迎えし、「見えないって どんなこと? ~ともにいきるしゃかいをめざして~」をテーマに3年生、4年生の教室で出前授業

していただきました。三上さんはとても陽気な方ですぐに子どもたちと仲良くなられ、あっという間の45分間でした。三上さんと子どもたちとの出会いは、初対面と思えないほどフレンドリーで生き生きとしていました。「三上さんは、本当は見えてるんじゃないの?」と思わせるほど、話を聞いている子どもたちの様子がよく見えているようでした。子どもたち一人ひとりの思いを、耳を澄ませて聞き取られる三上さんの姿勢に、教育の原点を感じました。

子どもたちも三上さんとの接点を見つけようと、次々に質問をしていました。質問の真意を受け止めて、どんな問いにも楽しく誠実に答えておられる三上さんの姿に、子どもたちは心を動かされたようです。この授業は、ビデオで他学年も後日学習します。

授業の後、子どもたちは三上さんへの手紙を書きました。どの子も、書きたいことが次々出てきて止まらない勢いでした。「三上さんが自分の話を聞いてくれてうれしかった」「自分の悩みも不幸じゃないんだと気づき、自分の力や友達の助けを信じてがんばっていこうという気持ちがわいてきました」など、本校の子どもたちの感性のすばらしさに感動しました。

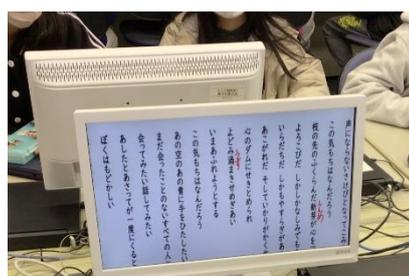
4年生では、三上さんへの手紙について、子どもたちから「点字で書きたい!!」という声が上がりました。子どもたちの純粋な気持ちにこたえるため、教職員は点字の授業に取り組むことにしました。その様子は後日お知らせします。

【6年生 国語 詩の授業】



写真を見てください。本校のPCルームです。一人一台タブレットが配備されてから、ほとんど使うことのなかったPCルームですが、この度PCやプリンターのリプレイスがあったことを機に、子どもたちのiPadとPC室の機材をフルに活用した新たな授業スタイルを検討しています。

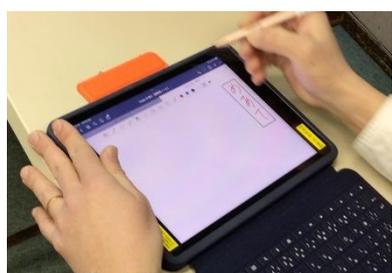
(裏面に続きます)



この詩の授業では、子どもたちの席の前

にあるモニターが教室の黒板替わりの

役目を果たします。教師は自身の iPad を片手に、タッチペンを使いながら子どもたちに詩を映し出して、詩の音読をしています。難しい読みの漢字には、教師が画面をアップにして読み仮名をタッチペンで書き込み、それがモニターに映し出されるので子どもたちは読みやすいです。



今日の授業の目当てを教師が iPad に書き込みます。その内容を目の前のモニター黒板で確認しながら授業が進みます。

今日は、詩で使われる「技法（対比、反復・・・）」について見つけ出し、その効果などを考えます。子どもたちは sky メニューの「発表ノート」に用意されたページで学習を進めます。



自分で考えた内容をすぐ近くの友達と話し合います。



この形式の授業のメリットは、子どもたちの目の前に黒板があり、教師は常に子どもたちの間を回りながら、子どもたちの傍で発言を聞き取り、iPad に書き込み、子どもたちはそれをすぐに目の前のモニターで確認できます。教室の授業をメ

インにしながらも、教材の内容によってはこのような形式の授業も、子どもたちの学習意欲を向上させられると感じます。